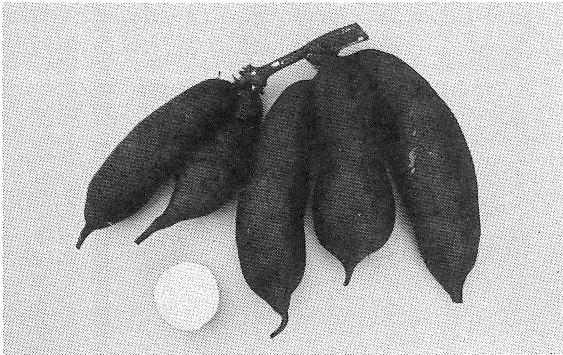




食用甘しょ新品種 「フサベニ」

農業研究センター 甘しょ育種研究室長 樽本 勲

▼ フサベニ



1. はじめに

わが国のかんしょ栽培面積は約7万ヘクタールであり、近年の原料用品種の作付減にともない、その60%強は食用・青果向品種が作付されている。食用・青果向かんしょの主産地は千葉県、茨城県などの関東地域であり、主力品種はベニアズマ、紅赤、高系14号（紅高系等の高系統）、ベニコマチである。昭和59年に登録され、普及の著しいベニアズマは別とし、紅赤は栽培の安定性と食味に、ベニコマチは外観品質に、高系14号は外観品質と食味にそれぞれ問題があり、また導入後の年数も長いことから品種更新が望まれていた。今回登録された「フサベニ」は、食味、品質・収量性で紅赤、高系14号には優り、また外観品質にも優れることから、関東地域において、食用・青果向かんしょ品種の一つとしての新規導入が期待される。本品種の普及上の一助になればと思い、以下に特性等の紹介を行う。

2. 育成の経過

「フサベニ」（旧系統名「かんしょ関東95号」）は外観品質良好、良食味多収、耐病虫性の品種育成を主目標に、食用として皮色、形状が良く、複合病害抵抗性を持つ「関東85号」（母本）と、食用として外観品質の良い「千系7238-19」（父本）との間の交配を行い、その交配組合（交配番号7727）から選抜された系統であり、その系譜は第1図に示す通りである。

交配は昭和52年に当時の九州農業試験場作物第二部第1研究室で実施。昭和53年に農業研究センター作物第一部甘しょ育種研究室において交配種子を播種し、実生個体選抜を実施以後、生産力、耐病虫性検定等を実施し、また昭和56年に「千系17」として特性検定・系統適応性検定試験を開始し、昭和58年から「関東95号」の地方番号を付して特性ならびに地域適応性を検討してきた。その結果、関東95号は、①食用品種として紅赤、ベニコマチより外観品質に優れ、多収であること、②立枯病、ネコブセンチュウに強く、栽培し易い等の特性が関東の食用かんしょ栽培地域で認められたこと、および千葉県においては、同県香取郡の一部地域の紅赤を対象として、栽培の安定化を目標に、奨励品種として採用の意向があることから、平成元年5月にかんしょ農林42号として登録され、「フサベニ」と命名された。

3. 特性の概要

1) 形態・生態特性

圃場における草型はほふく型で、草勢は中である。頂葉色は淡褐、葉色は緑、葉形は波・歯状単欠刻浅裂で、葉脈色および密線色は微である。茎はやや太く、茎長・分枝数は中で、節間長はやや短で、茎の毛茸は中である。茎色はやや少、節色は中である。しょ梗の長さは中、強さも中である。

いもの形状は紡錘形、揃いは良、大きさは中で、条溝・皮脈はない。いもの皮色は濃赤紫、肉色は黄白である（第2図）。

萌芽はやや速く、萌芽数は中で、萌芽揃いも中で、萌芽性は中である。

2) 収量特性

育成地における上いも収量は、マルチ早掘栽培では高系14号にやや劣るが、標準栽培ではベニコマチ、紅赤より多収であり、ベニアズマにはやや劣る収量性を示す。この結果から早期肥大性は中程度といえる。また株当たり上いも個数は、ベニアズマ、ベニコマチ、

高系14号、紅赤より多く、上物率（A品率）が高いことを示している。

配布先のうち、栽培適地と見込まれる都県における上いも収量は、標準品種の高系14号ないしベニコマチより多収であった。また千葉県農業試験場では、マルチ普通掘でベニコマチや高系14号より、普通掘でベニコマチより多収であった。特に最適地の千葉県栗源町の現地試験ではベニアズマより多収であった（第1表、第2表）。

3) 品質特性

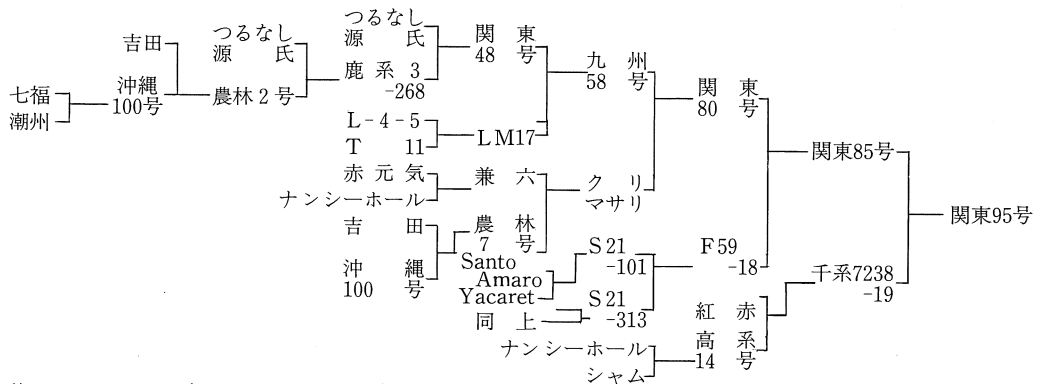
蒸しいもの肉色は黄白でベニコマチや高系14号と同程度で、ベニアズマより薄い。肉質は高系14号並のやや粉で、ベニコマチやベニアズマよりやや粘性である。蒸しいもののブリックス値はベニコマチ並で、ベニアズマより低い。食味は中上でベニコマチやベニアズマと同程度で、高系14号より良い。しかし、マルチ早掘栽培では、ベニコマチやベニアズマ

第1表 フサベニの特性一覧

試験地	農研センター（育成地）				千葉県農業試験場			千葉県・現地（栗源町）		
調査の年度 および種類	昭和58～63 無マルチ普通堀				昭和58～63 マルチ普通堀			昭和58～62 マルチ普通堀		
供試系統 および号種	関東 95号	ベニ コマチ (標準)	紅赤 (比較)	ベニ アズマ (比較)	関東 95号	ベニ コマチ (標準)	紅赤 (比較)	関東 95号	ベニ コマチ (標準)	紅赤 (比較)
いもの形状 いもの皮色 いもの外観	紡錘 濃赤紫 やや良	紡錘 赤紫 劣	紡錘 赤紫 中	長紡錘 濃赤紫 やや良	紡～長紡 濃赤紫 やや良～良	長紡 濃赤紫 中	長紡 赤紫 やや良	紡～長紡 濃赤紫 やや良～良	長紡 濃赤紫 中	長紡 赤紫 中～やや良
萌芽性	中	やや良	やや良	良						
早掘適性	中	中	低	高						
貯蔵性	中	やや易	難	やや難						
黒斑病 つる割病 立枯病 ネコアセンチュウ 粗皮症	中 やや弱 やや強 やや強 やや強	中 やや弱 中 やや強 やや弱	中 やや弱 中～やや強 やや強～強 中～やや強	中 やや弱 強 中						
上いも収量(kg/a)	185	166	79	204	256	229	155	351	195	156
同上対標準比(%)	111	100	48	123	112	100	68	180	100	80
株当たり上いも個数	3.8	3.2	1.4	2.5	3.0	3.0	1.8	—	—	—
でん粉歩留り(%)	23.6	22.6	20.9	24.0	—	—	—	(ベニアズマ：300kg/a 対標準比 154%)		
蒸しいもの 肉色 粉質 食味	黄白 やや粉 中上	黄白 粉 上下	黄白 中	黄 やや粉 上下	灰黄 やや粉 中	黄 やや粉 上下	黄白 やや粉 中	黄 やや粉 上下	黄 粉 上下	黄 やや粉 中

第2表 栽培適地と見込まれる都県における試作成績

	茨城 S 62-63	千葉(本) S 58-63	千葉(現) S 58-62	東京 S 62-63	神奈川 S 63	愛知 S 61-63	宮崎 S 61-63
上いも収量対標比(%)	119	112	180	120	83	92	106
食味	中上	中	中上～上	中上	中	中上	中上
見込み	△	△	○	△～○	△～○	△	△
標準品種	高系14号	ベニコマチ	ベニコマチ	高系14号	ベニアズマ	高系14号	コトブキ1号
上いも収量(kg/a)	214	229	195	178	378	229	250



第1図 フサベニ（旧系統名：関東95号）の系譜

交配：昭和52年 九州農業試験場作物第二部作物第一研究室

実生以後：昭和53年～昭和63年 農業研究センター作物第一部甘しょ育種研究室

系統番号：千系7727-26, 千系17

に劣る（第1表）。

4) 耐病虫性等

貯蔵性は高系14号と同程度の中である。立枯病，ネコブセンチュウにやや強の抵抗性，黒斑病に中，つる割病にはやや弱の抵抗性，ネグサレセンチュウにやや弱の抵抗性を示す。また激発条件下での粗皮症の発生はやや少ない（第1表）。

4. 栽培適地および適用範囲

試作結果から千葉，茨城，東京，神奈川等の各県の食用かんしょ地帯において，マルチ普通掘栽培用の食用（青果向）かんしょとして好適する。しかし，栽培条件により蒸しいもの肉色が不整で，灰味を帯びる向きがあることから，当面は，栽培最適地であり，かつ上記難点を生じさせない栽培法を有するとみられる千葉県香取郡の一部地域を普及見込み地域とする。

5. 栽培上の注意

(1) 栽培条件により，蒸しいものの肉質が不整であり，灰味を帯びることがあるので注意を要する。

(2) つる割れ病防除のため，苗消毒を行う。

6. おわりに

「フサベニ」の特徴は塊根の外観品質が良く，上物率（A品率）が高いことである。命名に当たっては，外観品質の良い赤色の塊根が縋状に実ることから「フサベニ」と命名された。漢表示は「縋紅」である。

最後にあたり，「フサベニ」の育成に御援助，御協力をいただいた関係者各員に感謝の意を表する。また本原稿の上梓に際し作表等を担当下さった当研究室の片山健二氏に謝意を表する。

* * *

「フサベニ」育成者一樽本勲・志賀敏夫・坂本敏・安藤隆夫・石川博美・加藤眞次郎・竹股知久・梅原正道・片山健二・小林仁・湯之上忠・宮崎司・中西建夫

〈筆者紹介〉樽本 勲氏 昭和15年4月30日生れ。昭和39年3月京都大学農学部農学科卒（昭和46年11月京都大学農学博士）。中国農業試験場，畜産試験場，草地試験場，農水本省技会事務局，生物資源研究所を経て，昭和60年4月に農業研究センターへ。昭和58年に日本草地学会賞，平成2年に日本育種学会賞（ベニアズマ，シロサツマ，ハイスターチの育成）を受賞。